

あまくに 天国の井戸

(菟田野稲戸)



井戸には、「神泉」として天国のいわれが記されています

平安時代以前に存在した日本刀剣の祖といわれる天国（あまくに）。その天国が平家一門の宝刀であり、現在、皇室御物になっている小烏丸（こがらすまる）の鍛刀の際、焼き入れに使ったのが、ここの井戸水といわれています。

そのことから、宇陀には平安時代から宇陀鍛冶といわれる刀鍛冶集団があり、宇太水分神社や墨坂神社などとも深い繋がりがありました。

また、明治41年に明治天皇が奈良に行幸され、陸軍特別大演習を耳成山で統監された際には、当時の宇陀郡町村長が刀を奉納する事を決議し、刀鍛冶 池田重光氏（榛原萩原）に刀の製作を依頼しています。重光氏は作刀にあたって、「天国」の伝承を慕い、この井戸の水で水を浴びて心身を清めるとともに、この水で刀を力作し奉納したといわれています。

それらのことから、今でも刀鍛冶の世界では「宇陀は日本刀発祥の地」として認識されているのです。

今日の Pick Up

世界一大きな絵

世界中の子どもたちが描いた絵をつなぎ合わせ、1枚の「世界一大きな絵」を作るというNPO法人アース・アイデンティティー・プロジェクト主催の活動。子どもたちが国や宗教、人種を超えて絵を完成させることにより、世界平和に対する意識を育てていくことが目的。

1m×5mの天竺木綿布にアクリル絵の具で描き、5枚をつなぎ合わせ、5m×5mの絵に仕上げます。市では各小学校の児童が、平和の象徴として「ふるさとの輝き、宇陀の四季」を描きました。

この作品は2020年に完成・展示を目指し、他の都市の作品とつなぎ合わせ、1辺100m四方の「世界一大きな絵」となっています。作品は被爆地広島の本川小学校の記念館に送られます。子どもたちの平和への願いが、大きく広がり、世界に届いていくことを願います。



- ▲上から 春：大宇陀小（又兵衛桜ほか）
- 夏：榛原小（花火大会ほか）
- PEACE UDA：榛原西小・室生小
- 秋：菟田野小（カエデほか）
- 冬：榛原東小（大和富士ほか）

それぞれの校区の自然や文化遺産、人々の輝きなどを表現しています。

▲ 各小学校で取り組みました。